

サボテンのようにならん



下1964(昭和39)年のサボテン生産の様子(春日井市上田楽町で)(同市提供)

新型コロナウイルス感染拡大で沈んだ雰囲気を晴らすと、名城大(名古屋市天白区)の「ノバルノ研究室」が春日井市の特産品であるサボテンをテーマにポスターを作った。なぜサボテンかといえば、伊勢湾台風から立ち上がったまちのシンボルだから。コロナ禍にめげないでと思いを込め、十七日から市公共施設などにポスターを掲示し始めた。

(高岡涼子)

ポスターには青空に向かって伸びる青々としたウチワサボテンの写真。脇に「サボテンになる」と大書きし、「がんばろう自分を信じて」とメッセージを添えた。意匠やメッセージはテ

春日井の公共施設などに掲示

ザイナーの素案を基に学生が市と協議して決めた。サボテンが春日井の特産品となつたきっかけは一九五九(昭和三十四)年の伊勢湾台風。春日井市桃山町一帯では戦前から果樹栽培の副業で一部農家がサボテンに取り組んでおり、台風で大打撃を受けた果樹農家がサボテン栽培に切り替えたことで一大産地に成長した。

研究室名の「ノバルノ」はウチワサボテンの品種「ノバル」に由来。春日井のサボテンで商品開発などを取り組んできた。研究室を運営する近藤歩・農学部准教授(五二)は「伊勢湾台風復興のシンボルである春日井サボテンを見て、コロナ禍を生き抜こう」と話す。「サボテンは乾燥した過酷な環境に適応し、葉っぱのような茎の上部から新しい茎を生やして成長する。その姿にあやかり、コロナ禍でも変化を受け入れた新しい自分を積み重ねていくこと、自分自身に蓄えられている生きる力を信じてみよう」という願いを込めた」

春日井市役所などの公共施設や市内の飲食店に十七日から掲示。名古屋市営地下鉄名古屋駅、金山駅などの主要駅でも十七日から二週間、またJR名古屋駅や金山駅などでも二十二日から二週間掲示する。

名城大「ノバルノ研究室」がポスター

ニュース、情報は下記へ
社会部
052-231-1650・5919
Eメール
shakai@chunichi.co.jp

春日井支局 〒486-0844
春日井市鳥居松町3-60
0568-81-2036 Fax 81-2797
犬山通信局 0568-61-2612 Fax 61-2613
小牧通信局 0568-72-1177 Fax 72-6530
瀬戸支局 0561-82-3121 Fax 82-5316
一宮総局 0586-72-4545 Fax 72-5035
江南通信部 0587-54-4001 Fax 54-9622

中日新聞へのご意見は
読者センターへ
052-221-0800 Fax 221-0819
Eメール
center@chunichi.co.jp
掲載写真を購入希望の方は
最寄りの中日新聞販売店へ